

# SAGA建設技術フェア2019

## 開催報告書



本報告書は、令和元年6月12日（水）～13日（木）にかけてガーデンテラス佐賀ホテル&マリトピアで開催した「SAGA建設技術フェア2019」の実施内容およびアンケート調査結果等についてとりまとめたものです。

令和元年12月

公益財団法人佐賀県建設技術支援機構

## 目次

1. フェアの概要 .....	1
2. 出展者 .....	2
2.1 出展者一覧表（46 団体） .....	2
2.2 会場配置 .....	3
2.3 会場のようす .....	4
3. 来場者 .....	5
3.1 来場者数 .....	5
3.2 来場時間帯 .....	6
4. 実施内容 .....	7
4.1 ポスター及びチラシ .....	7
4.2 開催プログラム .....	8
4.3 開会式 .....	10
4.4 特別講演 .....	11
4.5 女性技術者講演 .....	12
4.6 若手技術者発表 .....	12
4.7 技術発表 .....	14
4.8 パネル展示 .....	15
4.9 閉会式 .....	16
4.10 受講証明書の配布 .....	16
5. アンケート結果 .....	17
5.1 来場者アンケート .....	17
5.2 出展者アンケート .....	24
6. まとめ .....	28

## 1. フェアの概要

主 催	公益財団法人佐賀県建設技術支援機構
共 催	佐賀県／佐賀大学／一般社団法人佐賀県県土づくりコンサルタント協会／ 一般社団法人佐賀県建設業協会／一般社団法人佐賀県建築士会／特定非営 利活動法人技術交流フォーラム
後 援	国土交通省九州地方整備局／佐賀県教育委員会／佐賀市／一般社団法人佐 賀県地質調査業協会／佐賀県土木施工管理技士会／一般社団法人佐賀県建 築士事務所協会／低平地研究会／公益社団法人土木学会西部支部／公益社 団法人地盤工学会九州支部／公益社団法人日本技術士会九州本部／一般社 団法人建設コンサルタント協会九州支部／NHK 佐賀放送局／サガテレビ／ 佐賀新聞社／建設新聞社
日 時	【1日目】令和元年6月12日（水）10:00～16:00 【2日目】令和元年6月13日（木）10:00～16:00
場 所	ガーデンテラス佐賀 ホテル&マリトピア（佐賀市新栄東3丁目7番8号）
目 的	建設分野（土木・建築）の技術・工法・製品などについて、産・学・官にお ける技術情報の交流の場を提供し、技術開発や新技術導入の促進を図るこ とで建設産業の発展に寄与するとともに、学生・一般の方々に建設業界の魅 力や社会資本整備の必要性を認識してもらうことを目的とする。
テ ー マ	豊かで安全な暮らしを支える建設技術
内 容	技術展示ブース 特別講演 女性技術者講演 若手技術者発表 技術発表 パネル展示
出展テーマ	環境／防災／コスト削減／維持管理／ICT／佐賀の技術
来 場 者	総数 2,022名（2日間延べ） 【内訳】 官公庁 145名 コンサルタント 355名 建設業 787名 一般 62名 学生 261名 ブース関係者 412名

## 2. 出展者

### 2.1 出展者一覧表（46 団体）

46 の企業・団体からブースを出展していただきました。県内の企業・団体からの出展は 28 ブースでした。

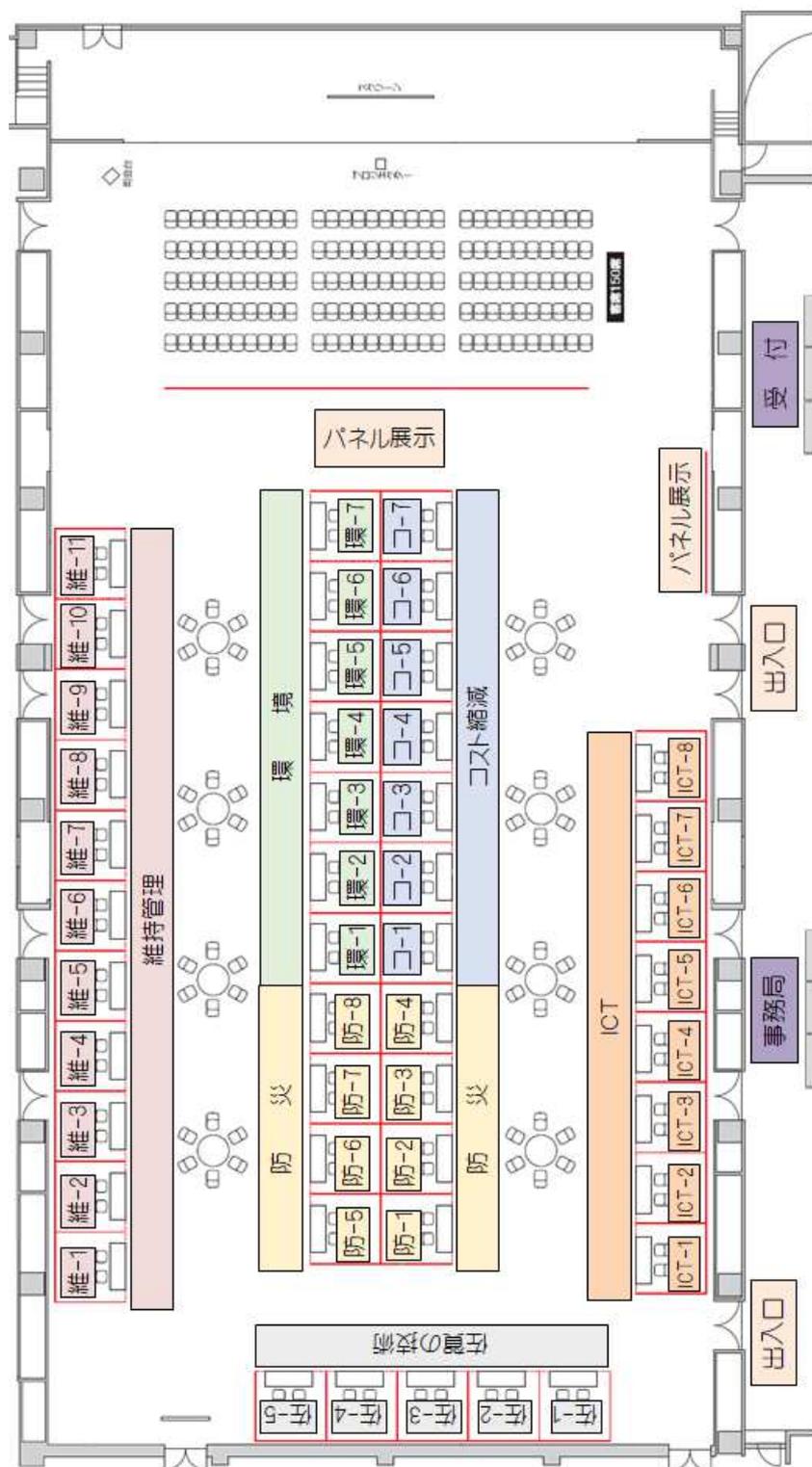
【出展者一覧（46 団体）】

分類	番号	企業・団体名
環境	環-1	九電グループ 九電テクノシステムズ(株) 佐賀支店
	環-2	日本建設技術(株)
	環-3	不二コンクリート工業(株)
	環-4	(一社)有明未利用熱利用促進研究会
	環-5	高原木材(株)
	環-6	森田建設(株)
	環-7	日本乾溜工業(株) 佐賀支店
防災	防-1	(株)ヤマックス
	防-2	国土交通省 九州地方整備局 佐賀国道事務所
	防-3	FSテクニカル(株)九州営業所
	防-4	PAN WALL工法協会 (矢作建設工業(株))
	防-5	(株)仙台銘板 佐賀営業所
	防-6	東亜建設技術(株) 佐賀営業所
	防-7	九電グループ 西日本技術開発(株) 佐賀営業所
	防-8	九電グループ (株)キューヘン 九電グループ 九電ビジネスソリューションズ(株)
コスト縮減	コ-1	GIコラム研究会
	コ-2	精密舎(株)
	コ-3	日本製鉄(株)
	コ-4	Fe石灰技術研究所
	コ-5	エポコラム協会 九州支部
	コ-6	(株)ヤマウ
	コ-7	土留部材引抜同時充填工法研究会会員：バイオテックス
維持管理	維-1	(株)太平洋コンサルタント
	維-2	佐賀県のリフレッシュ工法協会
	維-3	大同塗料(株) 福岡営業所
	維-4	(株)島内エンジニア
	維-5	(株)藤崎建設 (一社)コンクリートメンテナンス協会
	維-6	(一社)NME研究所
	維-7	麻生グループ
	維-8	アジア航測(株) 佐賀営業所
	維-9	日本サミコン(株) 九州支店
	維-10	富士フイルム(株) (株)ムサシ
	維-11	山王(株)
ICT	ICT-1	国際技術コンサルタント(株)
	ICT-2	(株)水上洋行
	ICT-3	福井コンピュータ(株)
	ICT-4	(株)アシストユウ
	ICT-5	(株)ソアー
	ICT-6	(株)ワイビーエム
	ICT-7	アイサンテクノロジー(株)
	ICT-8	不動技研工業(株)
佐賀の技術	佐-1	日之出水道機器(株) 九州営業所
	佐-2	(株)セリタ建設
	佐-3	フローティング基礎研究会
	佐-4	(一社)佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会
	佐-5	佐賀大学

## 2.2 会場配置

会場配置は、入口付近に受付と事務局、会場入って右側にステージ、残り 2/3 に出展ブースを設けました。

【会場配置図】



## 2.3 会場のようす

### 【全 景】



### 【受 付】



### 【出展ブース】



### 【ステージ】



### 3. 来場者

#### 3.1 来場者数

2日間で総計2,022名の方にご来場いただきました。建設業の来場者が最も多く、次いでコンサルタントが多い結果となりました。

【来場者集計表】

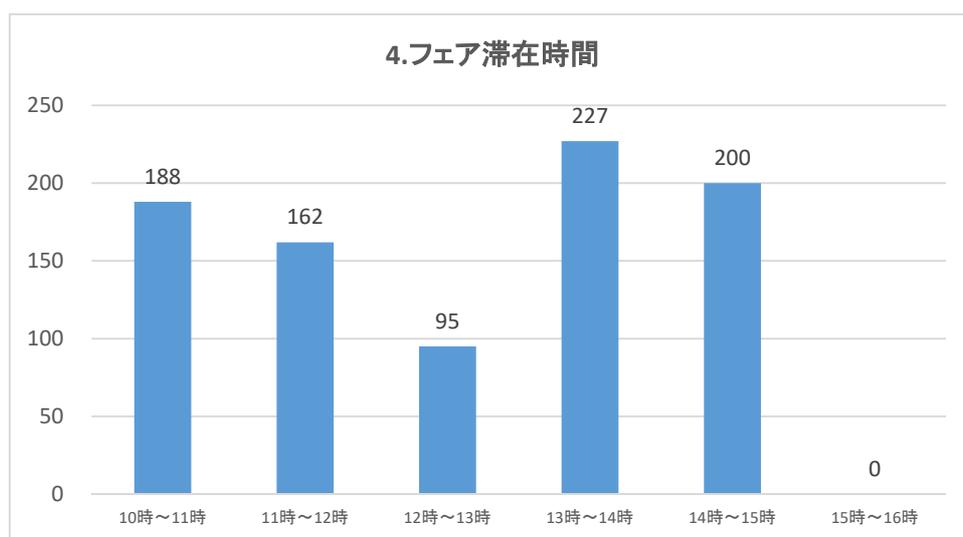
(単位：人)

		6/12(水)	6/13(木)	小計
官公庁等	男性	55	69	124
	女性	6	15	21
	小計	61	84	145
コンサルタント	男性	152	164	316
	女性	16	23	39
	小計	168	187	355
建設業	男性	338	411	749
	女性	14	24	38
	小計	352	435	787
学校	高校 /大学	168	93	261
	小計	168	93	261
一般	男性	30	22	52
	女性	9	1	10
	小計	39	23	62
ブース関係者	男性	186	197	383
	女性	12	17	29
	小計	198	214	412
合計		986	1036	2022

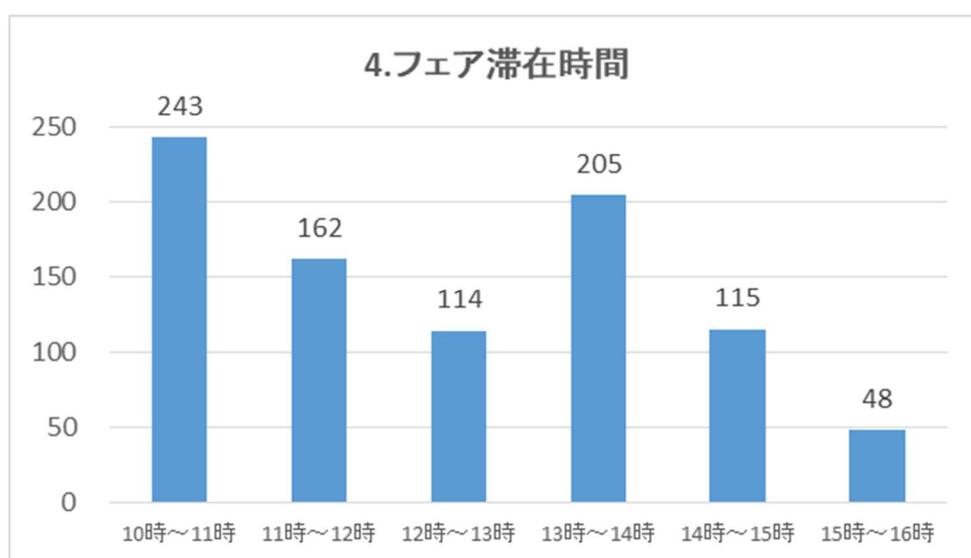
### 3.2 来場時間帯

来場者へのアンケート結果に基づく来場時間帯は、午前と午後ともに、時間が経つにつれて滞在人数が減る傾向にあるようです。

#### 【来場時間帯】



(1日目)



(2日目)

## 4. 実施内容

### 4.1 ポスター及びチラシ

フェアの開催を広く周知するため、ポスターおよびチラシを作成し、区市町や関係団体等に配布しました。

【ポスター及びチラシ】



(ポスター／チラシ表)



(チラシ裏)

## 4.2 開催プログラム

1日目は開会式、特別講演、若手技術者発表、技術発表10件、2日目は特別講演、女性技術者講演、若手技術者発表、技術発表9件、閉会式を行いました。

### 6月12日(水) <<1日目>>

時間	内容	
10:00~10:15	開会式	主催者挨拶
		来賓挨拶
		テープカット
10:15~12:00	技術発表(1) 各15分	①【佐-1】日之出水道機器(株) 九州営業所 「橋梁ジョイントとグレーチングの長寿命化・安全性・施工性・維持管理性の向上」
		②【佐-2】(株)セリタ建設 「スラリー脈動噴射システム・地盤改良 品質予測システムSEEM」
		③【佐-3】フローティング基礎研究会 「軟弱地盤上の道路工法、沈下、振動対策、トータルコストミニマム」
		④【佐-5】佐賀大学 「インフラ構造物の点検、調査、補修に関する技術支援および点検・診断技術の開発」
		⑤【環-4】(一社)有明未利用熱利用促進研究会 「環境に優しい未利用熱利用を普及促進し、生活環境の向上に寄与します」
13:00~14:00	特別講演 (1)	「近代測量150年について」  国土交通省 国土地理院 九州地方測量部 測量課長 小室 勝也 氏
14:00~14:30	若手技術者発表 (1)	「建設業界の魅力」  (一社)佐賀県建設業協会 松尾建設(株) 今泉 郁也 氏 牟田建設(株) 末次 真備 氏
14:30~16:00	技術発表(2) 各15分	⑥【環-6】森田建設(株) 「アルミ合金を活用したシステム型枠 工期短縮を可能にするALSP <sup>®</sup> 工法」
		⑦【ICT-1】国際技術コンサルタント(株) 「ICT活用のご紹介(UAV測量、地上レーザースキャン他)」
		⑧【ICT-4】(株)アシストユウ 「屋外可搬型ネットワークカメラ“モニタリングミックス”」
		⑨【ICT-6】(株)ワイビーエム 「Y-LINK(全自動施工管理制御システム)」
		⑩【ICT-7】アイサンテクノロジー(株) 「WingEarth:大規模3D点群データ高速編集ツール」
~16:00	1日目閉会	

ブ  
ー  
ス  
展  
示

6月13日(木) ≪2日目≫

時間	内容	
10:00~	2日目開会	
10:00~10:30	若手技術者発表 (2)	「建設業界の魅力」 (一社)佐賀県建設業協会 (株)山崎建設 市丸 竜之介 氏 (株)中野建設 田代 大樹 氏
10:30~12:00	技術発表(3) 各15分	⑪【防-4】PAN WALL工法協会 「PAN WALL 安全な逆巻き施工を基本とする急勾配地山補強土工法」
		⑫【維-1】(株)太平洋コンサルタント 「コンクリートの分析技術 / RFID腐食環境システム」
		⑬【維-6】(一社)NME研究所 「橋梁の補修他に有効な「ブリッジハンガー」と「ナローハンガー」
		⑭【維-9】日本サミコン(株)九州支店 「塩分吸着剤を応用した構造物の長寿命化」
		⑮【維-10】富士フィルム(株) / (株)ムサン 「AIを活用した社会インフラ画像診断システム『ひびみつけ』」
13:00~14:00	特別講演 (2)	「唐津城石垣復旧における地盤工学的考察」 佐賀大学名誉教授 三浦 哲彦 氏
14:00~14:45	女性技術者講演	「女性技術者から見た建築の魅力」 (一社)佐賀県建築士会 満原建設(有) 満原 早苗 氏
14:45~15:50	技術発表(4) 各15分	⑯【コ-3】日本製鉄(株) 「経済性に優れたハット形鋼矢板の提案」
		⑰【コ-5】エポコラム協会 九州支部 「エポコラム工法-コスト縮減・工期短縮可能な深層混合処理工法-」
		⑱【コ-6】(株)ヤマウ 「トータルコスト削減を可能にしたプレキャスト製品」
		⑲【コ-7】土留部材引抜同時充填工法研究会 「近接工事や堤防において鋼矢板等を安心して引抜ける唯一の新技術」
15:50~16:00	閉会式	主催者挨拶

↑  
ブ  
ー  
ス  
展  
示  
↓

### 4.3 開会式

ステージにて開会式を執り行いました。共催や後援の皆様方にご列席いただき、主催者挨拶、来賓挨拶、テープカットが行われました。

【主催者挨拶(支援機構 西村理事長)】 【来賓挨拶(佐賀国道事務所所長 小串 俊幸 氏)】



【来賓・共催者によるテープカット】



(テープカット写真 左から)

一般社団法人佐賀県建築士会  
一般社団法人佐賀県建設業協会  
佐賀県 県土整備部 建設・技術課  
公益財団法人佐賀県建設技術支援機構  
国土交通省 九州地方整備局 佐賀国道事務所  
佐賀大学 理工学部  
一般社団法人佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会  
特定非営利活動法人技術交流フォーラム

常務理事	山口 美由起 氏
副会長	牟田 正明 氏
副課長	川崎 文仁 氏
理事長	西村 平
所長	小串 俊幸 氏
准教授	後藤 隆太郎 氏
副会長	福島 裕充 氏
理事長	小野 龍太 氏

#### 4.4 特別講演

1日目は、国土交通省 国土地理院 九州地方測量部 測量課長 小室 勝也 氏に「近代測量 150 年について」と題してご講演いただきました。

2日目は、佐賀大学 名誉教授 三浦 哲彦 氏に「唐津城石垣復旧における地盤工学的考察」と題してご講演いただきました。

【国土地理院 九州地方測量部 測量課長 小室氏による講演のようす】



【佐賀大学名誉教授 三浦氏による講演のようす】



#### 4.5 女性技術者講演

建設業界での女性の一層の活躍に寄与することを目的として、女性技術者講演を2日目に行いました。講演では、満原建設(有) 満原 早苗 氏に「女性技術者から見た建築の魅力」と題してご講演いただきました。

##### 【満原建設(有) 満原氏による講演のようす】



#### 4.6 若手技術者発表

建設業界での若手の一層の活躍に寄与することを目的として、「建設業界の魅力」というテーマで若手技術者発表を行いました。

1日目は、松尾建設(株) 今泉 郁也 氏と牟田建設(株) 末次 真備 氏、2日目は、(株)山崎建設 市丸 竜之介 氏と(株)中野建設 田代 大樹 氏にご講演いただきました。

##### 【松尾建設(株) 今泉氏による講演のようす (1日目)】



【牟田建設（株）末次氏による講演のようす（1日目）】



【(株)山崎建設 市丸氏による講演のようす（2日目）】



【(株)中野建設 田代氏による講演のようす（2日目）】



#### 4.7 技術発表

19 のブース出展者による技術発表をステージにて行いました。1 出展者あたりの発表時間は 15 分で各技術や製品などについて発表をしていただきました。

【技術発表者一覧表】

分類	No.	企業・団体名	発表者内容
【佐-1】	1	日之出水道機器(株) 九州営業所	橋梁ジョイントとグレーチングの長寿命化・安全性・施工性・維持管理性の向上
【佐-2】	2	(株)セリタ建設	スラリー脈動噴射システム・地盤改良 品質予測システムSEEM
【佐-3】	3	フローティング基礎研究会	軟弱地盤上の道路工法、沈下、振動対策、トータルコストミニマム
【佐-5】	4	佐賀大学	インフラ構造物の点検、調査、補修に関する技術支援および点検・診断技術の開発
【環-4】	5	(一社)有明未利用熱利用促進研究会	環境に優しい未利用熱利用を普及促進し、生活環境の向上に寄与します
【環-6】	6	森田建設(株)	アルミ合金を活用したシステム型枠 工期短縮を可能にするALSP <sup>2</sup> 工法
【ICT-1】	7	国際技術コンサルタント(株)	ICT活用のご紹介 (UAV測量、地上レーザースキャン他)
【ICT-4】	8	(株)アシストユウ	屋外可搬型ネットワークカメラ"モニタリングミックス"
【ICT-6】	9	(株)ワイビーエム	Y-LINK(全自動施工管理制御システム)
【ICT-7】	10	アイサンテクノロジー(株)	WingEarth：大規模3D点群データ高速編集ツール
【防-4】	11	PAN WALL工法協会 (矢作建設工業(株))	PAN WALL 安全な逆巻き施工を基本とする急勾配地山補強土工法
【維-1】	12	(株)太平洋コンサルタント	コンクリートの分析技術 / RFID腐食環境システム
【維-6】	13	(一社)NME研究所	橋梁の補修他に有効な「ブリッジハンガー」と「ナローハンガー」
【維-9】	14	日本サミコン(株) 九州支店	塩分吸着剤を応用した構造物の長寿命化
【維-10】	15	富士フィルム(株)(株)ムサシ	A Iを活用した社会インフラ画像診断システム『ひびみつけ』
【コ-3】	16	日本製鉄(株)	経済性に優れたハット形鋼矢板の提案
【コ-5】	17	エポコラム協会 九州支部	エポコラム工法-コスト縮減・工期短縮可能な深層混合処理工法-
【コ-6】	18	(株)ヤマウ	トータルコスト削減を可能にしたプレキャスト製品
【コ-7】	19	土留部材引抜同時充填工法研究会	近接工事や堤防において鋼矢板等を安心して引抜ける唯一の新技術

【技術発表のようす】



#### 4.8 パネル展示

会場では以下の団体等からのご協力によりパネル展示を行いました。

- ・国土交通省九州地方整備局佐賀国道事務所
- ・佐賀県
- ・(一社) 佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会
- ・(一社) 佐賀県建築士会

#### 【パネル展示のようす】



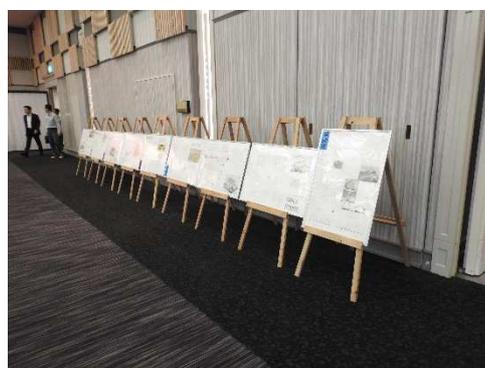
(国土交通省 佐賀国道事務所)



(佐賀県)



(佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会)



(佐賀県建築士会)

#### 4.9 閉会式

当支援機構の西村理事長の閉会挨拶で2日間の幕を閉じました。

【閉会挨拶】



【閉会式の様子】



#### 4.10 受講証明書の配布

当フェアは一般社団法人全国土木施工管理技士会連合会の運営する CPDS（継続学習制度）の学習プログラムとして認定を受けており、希望する来場者に受講証明書を発行しました。なお、CPDS のユニット数は両日とも3ユニットでした。

## 5. アンケート結果

### 5.1 来場者アンケート

来場者を対象にアンケート調査を行いました。

#### (1) 1日目

設問 1) フェアの開催はどこで知ったか

職場内（学校内）からの案内が最も多くなりました。

設問 2) 職業

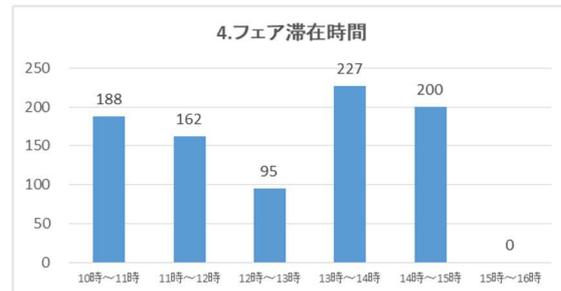
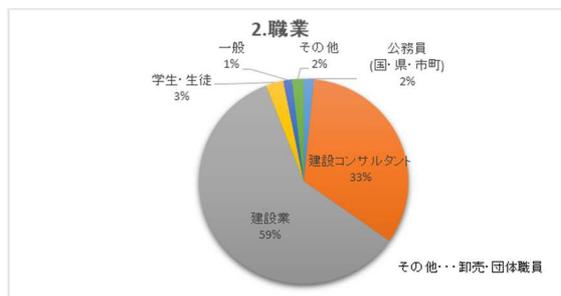
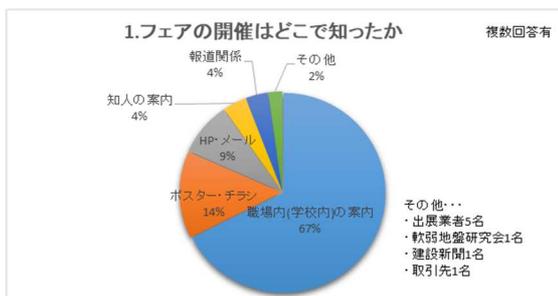
建設業が最も多く来場者の半数以上を占め、次いで建設コンサルタント（33%）となっています。

設問 3) 居住地

佐賀県内からの来場者が 88% を占めています。

設問 4) 滞在時間

午前と午後ともに、時間が経つにつれて滞在人数が減る傾向にあるようです。



設問 5) 来場目的

情報収集が最も多く 59%、次いで建設技術への興味が 31%となっています。

設問 6) 来場目的は達成できたか

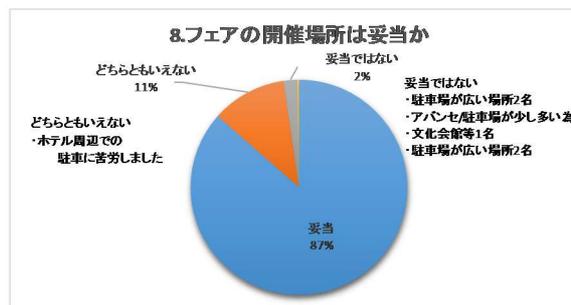
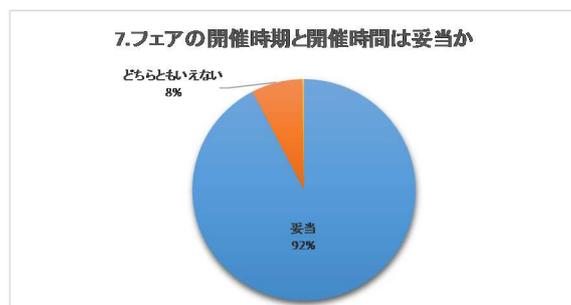
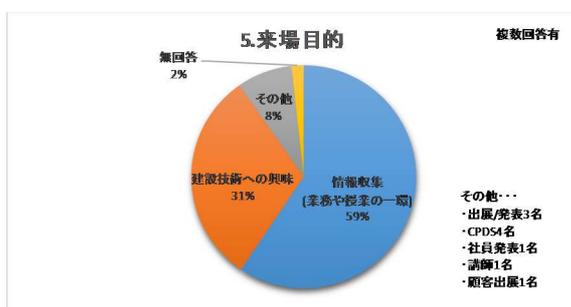
達成できたとやや達成できたを合計すると 91%となっています。

設問 7) 開催時期と開催時間は妥当か

妥当と回答した来場者は 92%となっています。

設問 8) 開催場所は妥当か

妥当という回答は 87%となっています。



設問 9) 毎年の開催を希望するか

希望するという回答は 92%となっています。

設問 10) 今回のフェアで印象に残ったプログラム

多くの方は、出展ブースが印象に残ったようです。

設問 11) フェアに関する評価

良い、やや良いという回答は 88%となっています。

【良い】

- ・建設技術の発展や防災について身近なものとして勉強できた
- ・若手・女性に業界に対しての考え方を発表してもらうのは良いアイデアと思う
- ・普段交流のない企業の方とも情報交換が可能で、色々な展示が参考となる

【やや良い】

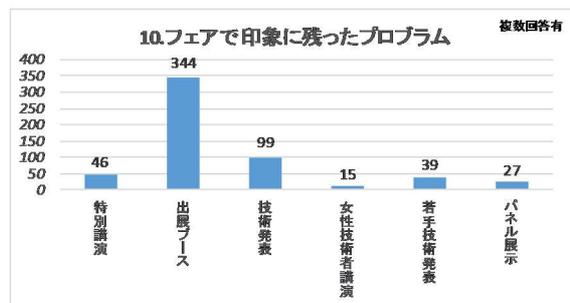
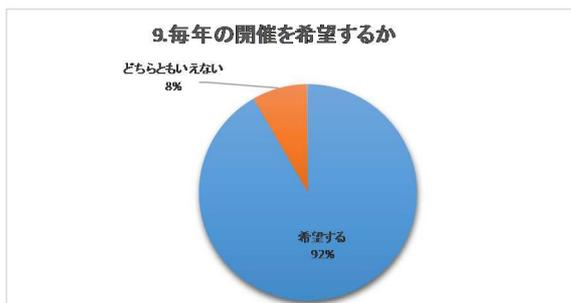
- ・佐賀に特化した技術が多く、いいと思う
- ・県内外の企業の出展数が多くて楽しめた
- ・他分野の新知見が得られる

【普通】

- ・十分な時間がなかったため、見れない部分が多かった
- ・出展ブースはもっと多くてもいい

【やや悪い】

- ・各ブースの特質が不足。技術内容が不明確



(2) 2日目

設問 1) フェアの開催はどこで知ったか

職場内(学校内)からの案内が最も多くなりました。

設問 2) 職業

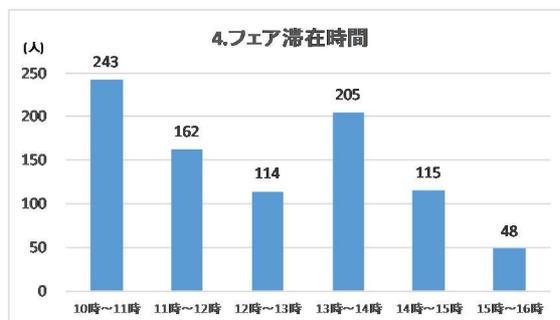
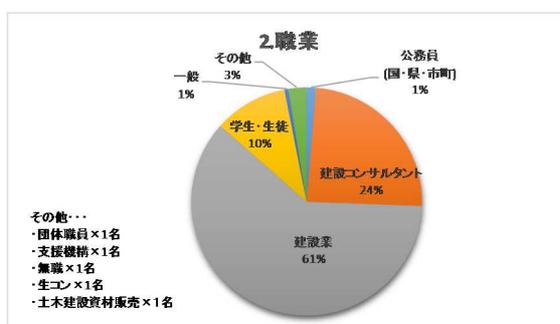
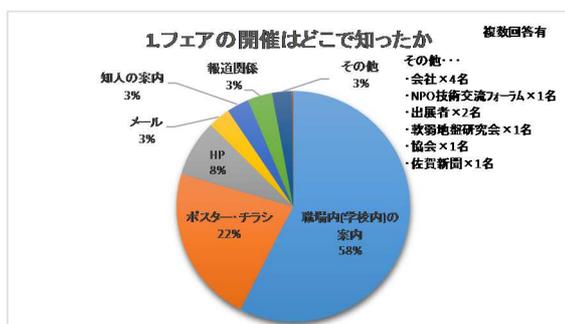
建設業が最も多く来場者の61%を占めています

設問 3) 居住地

佐賀県内から来場者が86%を占めています。

設問 4) 滞在時間

1日目と同様、午前と午後ともに、時間が経つにつれて滞在人数が減る傾向にあるようです。



設問 5) 来場目的

情報収集が最も多く 59%、建設技術への興味が 33%となっています。

設問 6) 来場目的は達成できたか

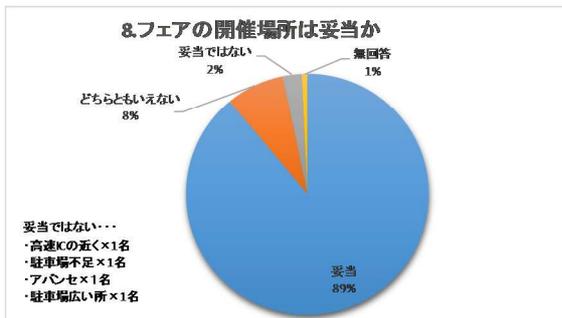
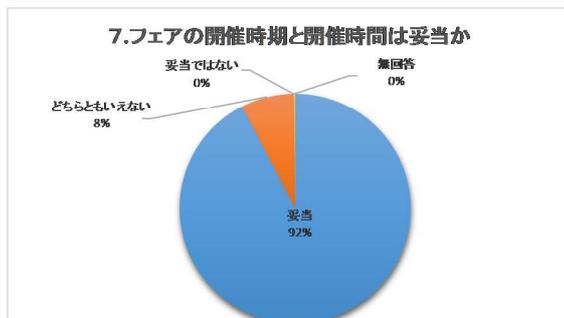
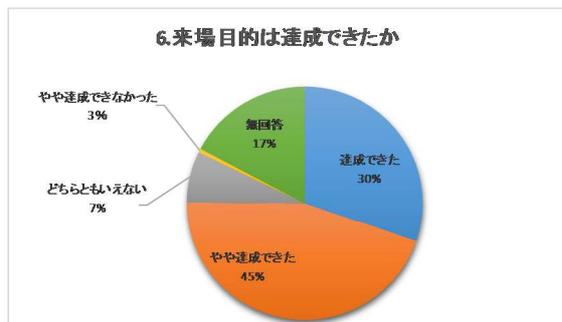
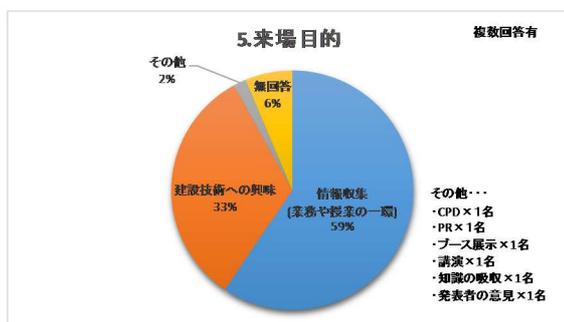
達成できたとやや達成できたを合計すると 75%となっています。

設問 7) 開催時期と開催時間は妥当か

妥当と回答した来場者は 92%となっています。

設問 8) 開催場所は妥当か

妥当という回答は 89%となっています。



設問 9) 毎年の開催を希望するか

希望するという回答は 92%となっています。

設問 10) 今回のフェアで印象に残ったプログラム

多くの方は、出展ブースが印象に残ったようです。

設問 11) フェアに関する評価

良い、やや良いという回答は 90%となっています。

【良い】

- ・各ブースのディスプレイ法など見た目もよく分かりやすい
- ・佐賀であると参加しやすい。地元の企業の話も聞ける
- ・スタンプラリーのため、来展者が増えた

【やや良い】

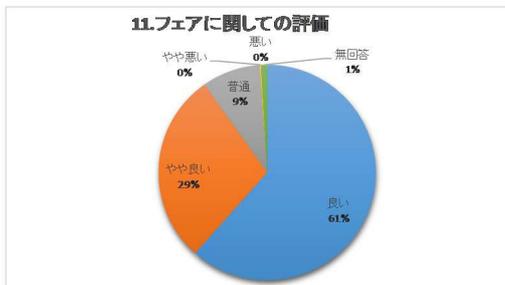
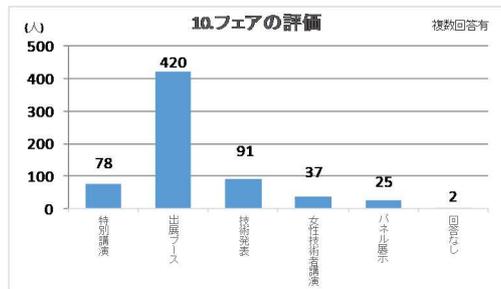
- ・技術発表、講演会場がオープンスペースなので出展ブース側の会話等の音で聞きにくいことがしばしばあった
- ・建築系を増やしていただければ
- ・VR 体験が良かった

【普通】

- ・建設に関する新しい技術、機器にふれ、知る事ができる良い機会である

【やや悪い】

- ・講演を聞く際にまわりの音がうるさい



### (3) 来場者からの自由意見

- ・ 測量技術（新しい測量機）や「防災予見についてのテーマ」について聞いてみたい。
- ・ 県内企業の NETIS 登録技術（建設技術に限定しないで）。
- ・ 地盤改良（軟弱地盤と埋設管に与える地盤改良の影響）、N 値 50 以上における基礎杭の根入れ工法。
- ・ 現地見学会など並行してあれば、より分かりやすいと思いました。
- ・ 女性技術者の方の現場の声などを聞いてみたい。
- ・ 各地で発生している災害（水・工砂）事例とその対策。
- ・ ため池の耐震解析（FEM 等）。
- ・ CPDS 獲得のために、ブースで話を聞くやり方は良いと思った。
- ・ 技術発表の ICT 活用紹介は大変分かりやすく興味深く聞くことができ良かった。
- ・ レーザー測量。
- ・ パウダーミキサー工法による地盤改良。
- ・ 生物多様性を考慮した土木技術（材料、資材も）、計画・設計・施工・維持管理。
- ・ CIM、技術伝承、省力化。
- ・ 下水道・管渠・マンホール等の更生、メンテナンス技術。
- ・ AI 技術を活用した土木・建築工事の積算。
- ・ 技術発表を聴講しただけで CPD 証が発行されないのはおかしいのではないか。
- ・ 環境保全に対する土木技術についてのブースや講演を聞いてみたいと思います。
- ・ 新技術の紹介と併せて、デモも行ってもらいたい。
- ・ 講演会は別室で、ブースエリアがうるさくて聞きとりにくい、落ちつかないとかくうるさいです。
- ・ 発表に対して質問時間が設けられると有難いです。
- ・ 最新の技術（ICT）関連及び分野外への興味を深めるキッカケになれば良いと思う。
- ・ 役所の方にも多数来ていただいたら良いと思う。全建さが等で研修に位置付けるとか。
- ・ 高校生のみでなく、小中学生にも興味をもってもらいたい。
- ・ ビニールごみの再利用化。
- ・ ボルト、ナット、塗装などの資材等にも興味があります。
- ・ 補修・補強技術。
- ・ 人件不足に対する対応。
- ・ 新しい技術の情報発信として続けて欲しい。
- ・ VR 技術、無人化施工。
- ・ 水質浄化対策のブース。
- ・ 上下水道に関するブースが欲しい。
- ・ 橋梁等構造的な出展がもっとほしい。

## 5.2 出展者アンケート

出展者を対象にアンケート調査を行いました。46社の出展者のうち、22社から回答をいただきました。

設問1) 出展の目的は

新製品等のPR、企業・団体のPR、営業活動がほぼ1/3ずつを占めました。

設問2) 出展の目的は達成できたか

達成できた・やや達成できたが3/4以上を占め、達成できなかったは0%でした。

設問3) 次回も出展したいか

出展したいは73%で、出展しない0%でした。

設問4) 技術発表をしたか

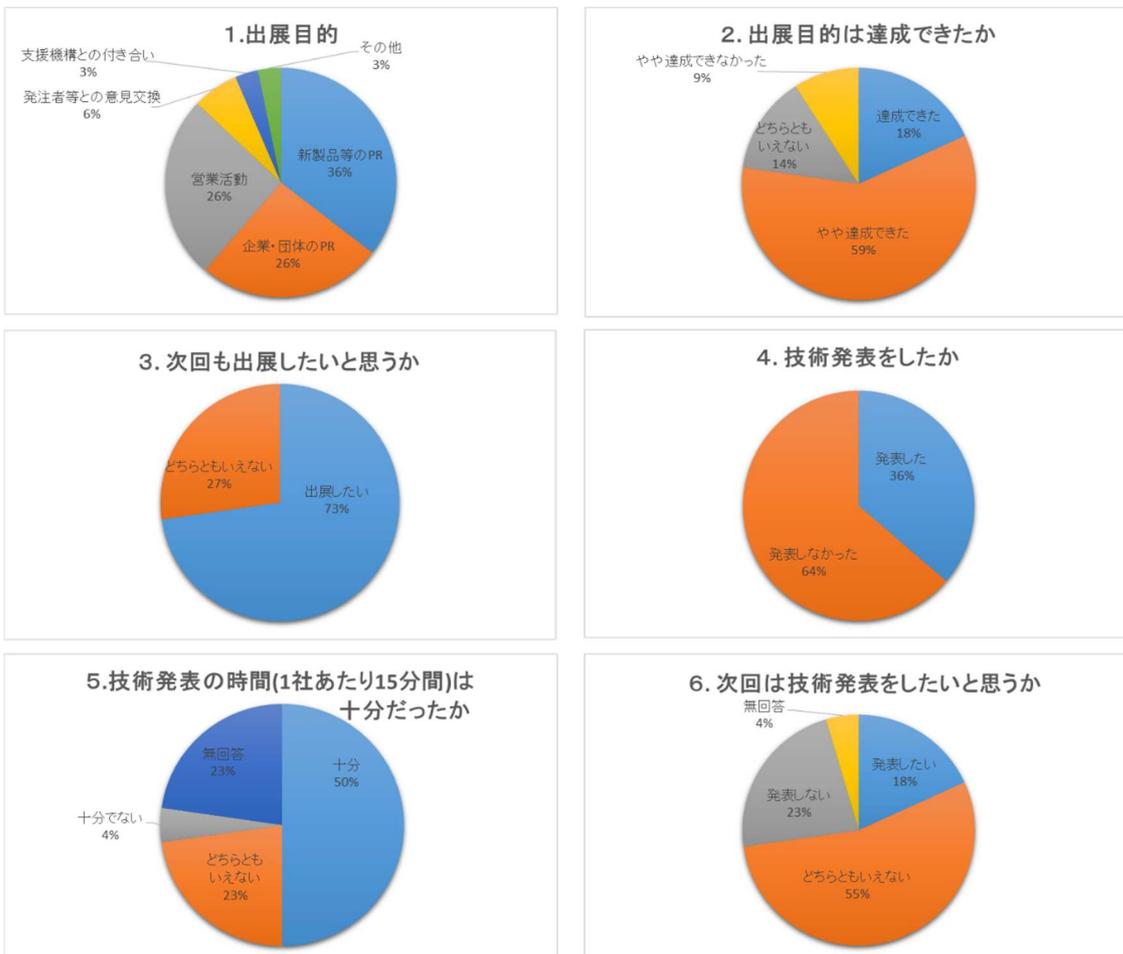
技術発表したのは36%でした。

設問5) 技術発表の時間(1社あたり15分間)は十分か。

半数は十分との回答でした。

設問6) 次回は技術発表をしたいか

次回も技術発表をしたいと答えたのは18%でした。



設問 7) 来場者数に満足したか

満足と回答したのは 64% でした

設問 8) フェア後に来場者に PR したか

半数以上の出展者がフェア後に PR したようです。

設問 9) フェア後に来場者からの問合せはあったか

来場者から問合せがあったのは 25% でした。

設問 10) フェアへの出展は有効だと感じたか

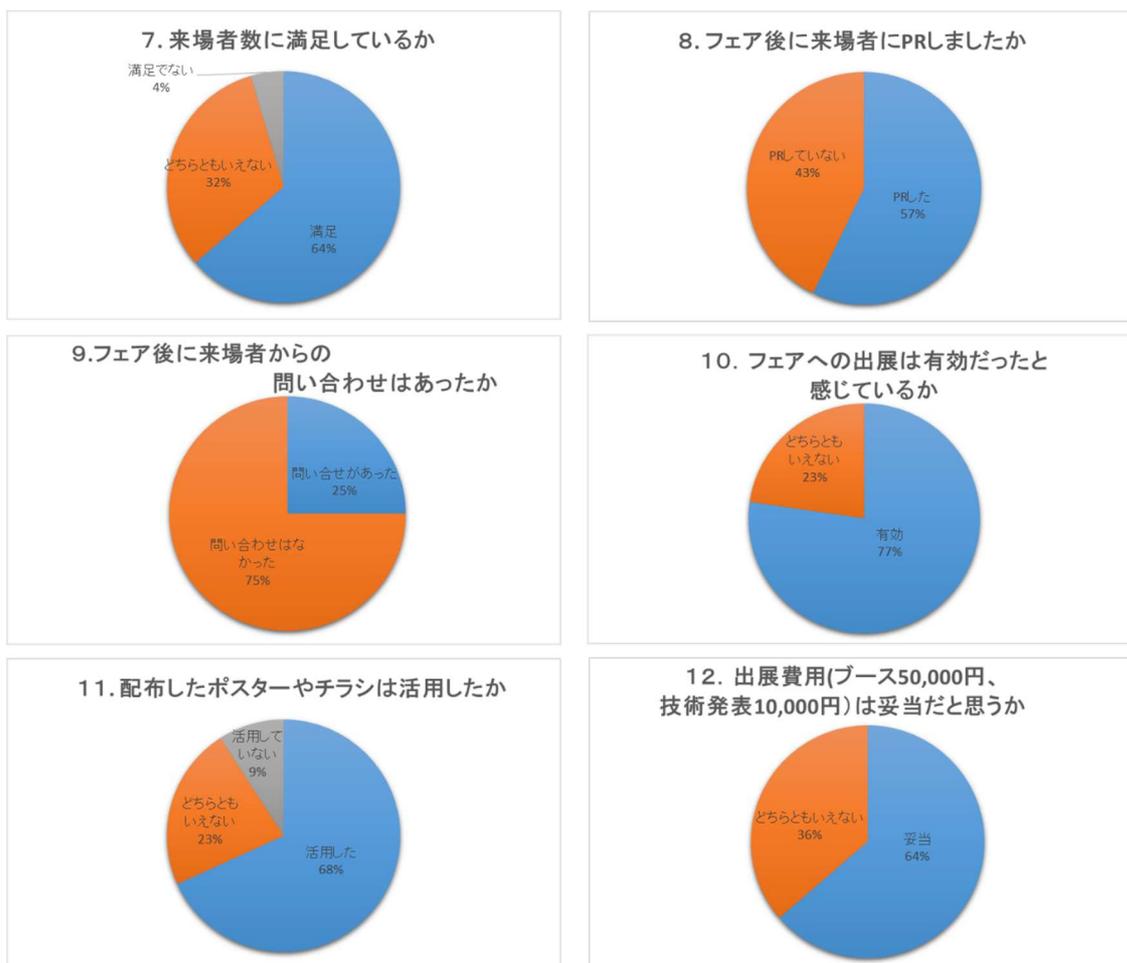
77% は出展が有効だったと感じているようです。

設問 11) 配布したポスターやチラシは活用したか

ポスターやチラシを活用したのは 68% でした。

設問 12) 出展費用 (ブース 50,000 円、技術発表 10,000 円) は妥当か

妥当と感じた出展者は 64% でした。



設問 13) 出展ブースの配置は適当か

8割程度は適当だという結果になりました。

設問 14) 意見交換スペースは必要か

必要だと感じたのは 32%でした。

設問 15) フェアが掲げる目的は達成したと思うか

達成したとやや達成したという回答を合計すると 86%となりました。

設問 16) フェアの開催時期と開催時間は妥当か

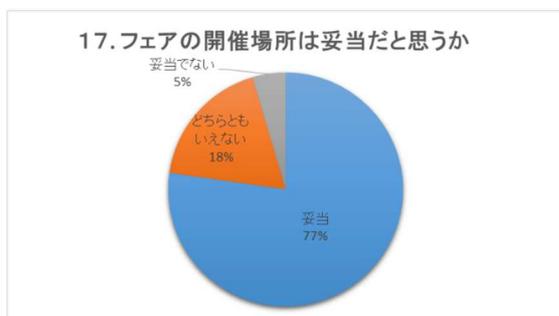
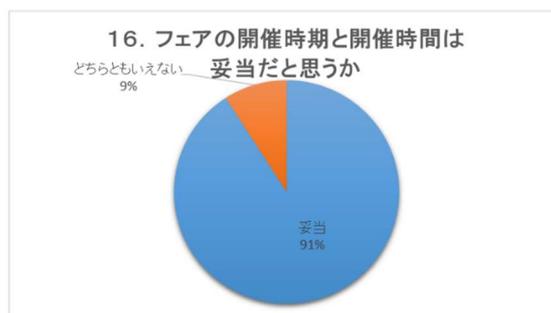
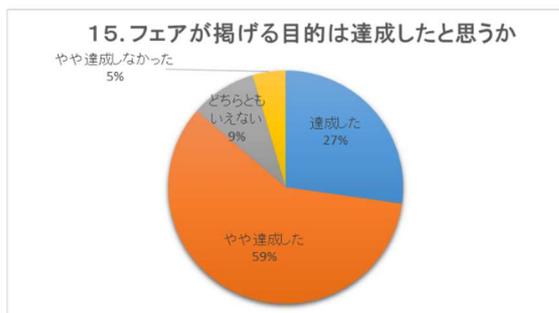
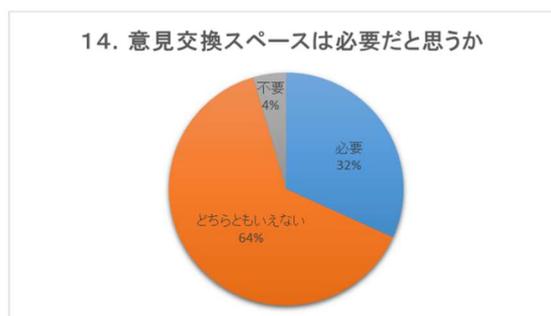
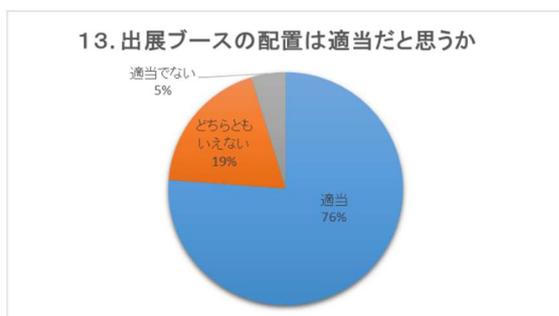
妥当という回答は 91%でした。

設問 17) フェアの開催場所は妥当か

妥当と感じた出展者は 77%いたようです。

設問 18) 毎年の開催を希望するか

希望すると回答した方が 77%でした。



### 【出展者からの自由意見】

- ・ 高校生の来場はあったが、大学生を見なかった。大学にも範囲を広げてみたらよい。高校生でも土木・建築の学生は多かったが、機械・電子・プログラム・デザインなどの学生は見なかった。今後進められる i-Construction や無人化といった技術は専門分野の範囲が広がるので広範囲に PR することが望ましい。
- ・ 新卒の学生さんが建設業離れの現状がある中、新技術を活用した施工などが知っていただければと考えます佐賀県内の工業系高校、専門学校、大学の参加を今後も期待します。佐賀県近郊の工業系以外の高校生にも、今後の進路の為に興味を抱いていただくためにも参加を促してほしいです。
- ・ 先端技術のデモを多くの方にお披露目できる場として期待しています。
- ・ せめて県の土木事務所の技術者は来場必須にする等、発注者の来場を促す仕組みを講じてほしい。また、各土木事務所発着のシャトルバスを運行する等の工夫を行い、各市町の来場も促してほしい。
- ・ 学生の来場が多くなったと思う。来年以降も学生の参加を行って頂きたい。
- ・ 駐車場の増設。
- ・ 佐賀県内の技術活性化として継続いただき、新たな人材への窓口の場として期待しています。
- ・ スタンプラリーは負担が大きいです。
- ・ 昼食の部屋のスペースが狭すぎます。
- ・ 業界関係者向けの資料と、学生向けの資料が違うため、今回は学生用の配布資料が不足しました。出来れば、事前に参加校高校の学校及び予定人数が解れば助かります。
- ・ 出展技術(企業)へのアドバンテージを促す活動をお願いします。また県、市町村の関係者の積極的な来場を促す活動をお願い致します。
- ・ 発注者の来場がもう少し増えれば費用も妥当と思いますし、継続して参加させていただきたいと思います。
- ・ ポスター及びチラシをもう少し早く頂きたい。
- ・ ブース出展・配置等の考慮を地元優先にしてほしい。
- ・ 土木分野がどうしても出展が多い状況のため、IoT/情報システム等がもう少しでもクローズアップいただける場があればと思います。(フェアの主旨も変わってくるかもしれませんが・・・)。

## 6. まとめ

当機構は、地方公共団体の建設行政との連携・協働を図り、社会資本の整備及び公共施設の維持管理に関する各種の技術支援事業を通じて、県民の安全で安心な生活の実現に寄与することを目的としています。

当フェアは、公益目的事業の「技術力向上のための技術情報発信事業」における「建設技術情報啓発事業」に位置付けており、日々進化する建設技術の情報収集発信・利活用が必要不可欠であるという観点から建設技術の理解を深めるための取り組みの一環として実施しました。

今回で 5 回目の開催でしたがこれまでで最大の来場者となりました。来場者ならびに出展者に対して実施しましたアンケート結果を見ると、多くの方にご満足いただいた一方、当日対応や出展内容などへのご意見・ご要望が多数あり、今後の開催にあたっての課題も明らかになりました。今後はそれらの課題を改善しながら、継続開催を希望する声も多かったことから充実したフェアとなるよう努めてまいります。

また、継続開催のためには、県内の建設業関連の団体・協会のご理解やご協力は必要不可欠で、佐賀大学や県内高校の学生・生徒が積極的に参加できるように連携していくことも重要と考えています。

最後に、当フェアを開催するにあたり多大なご協力をいただきましたご講演者の皆様、佐賀県をはじめとした共催者ならびに後援の方々、ならびに関係各位に厚く御礼を申し上げますとともに、今後の継続開催へのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(以上)